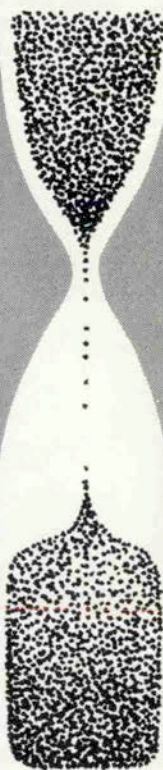


★キャンペーン

国際文化都市神戸を

考える



8

国際的なコンベンション シティづくり

市当局はポートアイランド総局を設置すべきだ――

柏井 健一

△柏井紙業株式会社社長
△神戸経済同友会常任幹事

鬼塚喜八郎

△株式会社アンックス社長
△神戸経済同友会代表幹事

★八〇年代は市民生活のニーズを充足する時代

諸岡 第二次大戦後をラフに眺めますと、二〇年代は戦前の物質生活に戻るための経済開発の時代。ひとつの価値観の下で市民社会は非常に真面目に働いていた。そして、アメリカの物質文明に追いつこうということで、三〇年代は技術導入が盛んとなり我々の社会生活も非常に変化がでてきた。いわゆる多様な価値観が三〇年代から出て来たのではないかと思います。例の六〇年安保で都市の若いインテリ層がラジカルに社会の古い秩序を根底からくつがえし始めたのであります。その結果、四〇年代になって来ますと、市民社会が価値の多様性を認めるようになって来ました。余暇の問題も出て来ました。しかし、まだ、行政も経済も真面目でした。社会資本が非常に遅れているので、社会開発で、社会資本整備

木口

衛

△株式会社ワールド会長
△神戸経済同友会常任幹事

中内

力

△シンエフワーズ株式会社社長
△神戸経済同友会幹事

諸岡

博熊

△神戸市企画局参事

率を引き上げようじゃないかということで、新幹線ができた、高速道路ができた、高度経済成長時代です。日本中を工業化のために都市化し、農村から都市へ人口を大量移動させたわけです。そこに出て来たのが公害とかの工業化のひずみです。行政にも価値の多様化が現われ、革新首長が多数誕生します。四十八年に、石油ショックが起きました。高度経済成長で国民の生活水準が急速に上昇したのちにやってきたのが経済不況、低迷時代なんです。今までは余裕がなかったのですがレジャーだとか、旅行だとか、本を買うとか、音楽を聴きに行くとかいうようないわゆるモノ離れの支出が始まり生活の豊かさを求め出しました。GNPをみますと、国民の消費支出が半分を占めております。政府の財政支出は一八パーセント、民間の企業支出は一六パーセントという状態です。そういう中で都市型先端産業、いわゆるいろんな

タイプのサービス産業が非常に伸びて来た。都市における産業のあり方も変わって来たわけだ。サービス経済の問題が非常にやかましくなって来て第三次産業というのが第二次産業の需要をつくるのだということがいわれるようになって来た。国民生活の豊かさは第三次産業の発展の度合とかみ合うのじゃなからうかといわれるわけだ。ここから、産業構造の見直しとなる。産業構造はなぜ変動するかという三つの要因がありまして、一つは需要の変動によるもの、第二は技術の進歩による構造変化、第三は国際経済の変動によるものですが、特に内需をみますと、これは国民の生活を充足するニーズのための変化が産業構造に変化をあたえるという、つまり、基幹産業先導型でなく消費生活者需要先導論です。生活の充足のニーズをもっと調べるべきだということになって来ているわけですが、生活の充足ニーズとは、そのバックに生活様式の蓄積があるわけで、すなわち、文化を離れてはありえないのです。つまり、生活の質の向上です。銀行にお金がダブつき出して、長銀の日下公人さんが昨年十一月に文化産業に金を使えと提案し、目下経済界で文化産業論が盛んとなっております。日本びいきのハーマン・カーンが「今日これからの日本にとって重要な問題は、新しい意味と新しい目的を発見することである」といっていますが、我々はまさにその時期にぶつかっているのではないかと思います。神戸の産業構造のあり方もそのような立場から、来るべき八〇年代はまさに市民の生活のニーズを充足するという方向へ向うのじゃないか。つまり、市民のライフスタイルに産業が対応する時代が来ているのじゃないかと思うわけです。昭和五十六年のポートアイランドでの博覧会は来るべき時代の生活様式の模索と産業構造の模索という問題を市民の前にこういうイメージで行きたいと、強烈に訴えることで、神戸経済の浮上があるのではないのでしょうか。

中内 二〇〇一年に神戸市の人口を一八〇万人にすると、こういうことがマスタープランとして発表されています

ね。あれが出てから四、五年経っていますが、どういう風に修正されるべきかは大きなテーマですね。雇用人口として約三〇万増えて来るとして、それを吸収するための産業構造はどうあるべきかということも一向に解っていない。

柏井 第三次産業の比率は大きくなりつつありますよ。鬼塚 第二次産業はビタツと止っていますね。

中内 第一次産業、第二次産業には雇用吸収力がないということですね。第三次産業、あるいは、第四次産業といわれているもので吸収しないといけない。それと文化産業とをどうかみあわせてこれから神戸の経済をもって行くかを考えないといけないわけですね。

鬼塚 文化産業が第三次産業の中に多く含まれているということですね。

諸岡 日下公人さんの文化産業論では、文化産業とは文化を創造して、文化および文化的記号を企業としたものだというわけですね。

鬼塚 確かに市民のニーズに立脚して考えないとあらゆることが外れて来だした。だからここに重点をおかないと産業といえどもまともな方向にいかないということとは確かですね。多様化するからターゲットが分散してしまっただけのように集中できないということはありますね。文化産業論はそのへんを産業的にどううまくまとめて行くかということになるだろうと思いますね。

中内 一つの参考資料ですが、昭和五十二年で神戸市に観光客は一三五〇万人来たそうですね。そして一三五〇億円の売り上げに結びついたというデータを神戸市が発表していました。これは神戸のゴム産業の年間総売り上げとほぼ匹敵する。神戸の観光がかなり大きな産業として成り立ち得るという一つの例じゃないですか。

鬼塚 観光資源をさらにもっと充実して行くということも重要なことですね。

中内 かなり大きなマーケットということですね。大きな産業に成り得るということですね。

★今こそ必要な発想の転換

木口 今の日本はだんだんとアメリカナイズされて来て情緒がなくなつて来ていますね。マンションがどんどん建つて、センター街にしても似たようなビルばかりですね。良いものを見つけようという気分にならんですね。店舗をつくれれば並べられるだけのものを並べる。情緒も何もなくなつて来ている。



柏井 健一さん

柏井 そういう不満感がニーズですよ。それを市民が感じているということです。

鬼塚 効率主義の考え方に徹底しすぎて、遊びとか無駄とか、いわゆる余裕が全然ない構造になって来ている。木口 博覧会をやるにしてもそういうことを前提に考え



鬼塚喜八郎さん

てやらないといけない。便利だから、合理的だから、また、人を集める計算ばかりしていても計算通りに人は集りませんよ。情緒がなかったら、ゆとりがなかったら遊びがなかったら、計算だけではダメだということを根本においておかないといけないですよ。

鬼塚 そういうスタイルをポートアイランドにつくり出して行く。

柏井 ポートアイランドという神戸市民が期待をもてる場所ができたことは市民にとっても幸福だと思う。それをそういう方向に生かさないといけない。既成市街地のように密集地帯にしてしまうのならつくる必要はない。木口 機能性と経済性ばかりを追求して行ったらとんでもないものができてしまうのじゃないですか。

中内 ポートアイランドには既存の市街地にないものをつくる。ポートアイランドと既存の市街地を合わせて非常に魅力あるものをつくる。それと何といつても神戸のこれからの課題はより広域な商圏を確立することだと思いますね。今、神戸に来ていて人だけを対象にやっているのは限界がありますね。

鬼塚 居住している住民を引き寄せる策と、国内外の観光客を引き寄せる魅力を両方ともたないけませんね。

柏井 神戸市が姉妹提携をしている都市に土地を貸与するという方法でもいいから文化交流的な施設をつくつてもらふことを積極的に関係がけないといけないですね。国際交流会館ができた、国際会議場ができた、見本市会場ができた、結局、コンベンション・シティみたいになって来ると思うのですが、二十四時間都市をポートアイランドに求めるべきですね。

中内 発想を根本的に転換すべきですね。公害のない工場や新しい事業所は積極的に誘致しないといけないし、クルマで買物やレジャーにどんどん来てもらおうという発想に変えないといけないのじゃないか。たとえばポートアイランドに五千台収容の駐車場をつくる。どこ土地でもやっているようにクルマは締め出す、工場は締め出すということでは将来どうにもならなくなって来るのではないですか。特に神戸では。

鬼塚 装身具の加工業なんかは、工場で加工するのを見せながら売る。神戸では真珠なんか最適ですね。加工している隣は綺麗なショッピングストア。そういう産業を



木口 衛さん

どんな誘致して魅力のあるショッピングができるようにする。

柏井 もっと長期的に考えて、六甲アイランドというものとポートアイランドというものをどう産業構造のなかに組んで行くかということ、六甲アイランドというもの



中内 力さん

をどういう形にもって行くか、ポートアイランドをどういう形にもって行くか。これの組みかえをやって将来の予定線組んでその中でポートアイランドに娯楽施設的なもの、文化施設的なもの、会議都市的な要素を含めるいろんなもの、海外のいろんな施設をもつて来るなりと



諸岡 博熊さん

いう方針を立てないで漠然とできたところから順番にコンテナヤードをつくったりというのは困る。六甲アイランドにもこういうものを誘致するのかということを決めて神戸市当局が実際に動かないといけないですね。

中内 西神にインダストリアル・パークがあつて、北神工業団地があるでしょう。この大きなプロジェクトの内容はまだハッキリとは決ってないですね。あそこらへんとかみ合わせというか、全体的な調整も考えないといけないでしょうね。

柏井 漠然と埋め立てをして変なところに売ってしまえばおわりですよ。財政的に可能ならレンタルをやるべきだと思います。

諸岡 海外でも港湾都市でオーブンスペースのあるところは九十九年間という恒久的なレンタルですね。そこに政策が入って来るんです。政策とは土地利用についての問題です。それがきちんとしていて、来て欲しい企業には優遇措置をとって貸しつける。どちらかというと売らない。

★「ポートアイランド総局」の設置で窓口の一本化を

中内 土地問題は最大の問題ですが、もう一つの問題は各施設についてどういうものをつくるかというアイディアの結集ができてないような気がしますね。展示会場をつくるのにしてもどういう展示会場をつくるのかということですね。国際会議場にしようというものが本当に必要なか、国際交流会館にはどういう機能をもたすべきか、南公園すら五万坪の敷地は決まっていますが、中味は何だと。これがまったく分らないという状況なんですね。アイディアの結集がないですね。一体どうするか。市の方にポートアイランド総局というまとまったところが欲しいですね。

柏井 神戸商工会議所の少社会員懇談会でポートアイランドについて五つ問題点を指摘したんですが、一番の問題はそれですね。「神戸市において、ポートアイランド計

画を実施されるにあたっては、市の窓口を一本化されることが望ましく、さらに、インターナショナルスクエアの諸施設を、総合的に企画運営管理していく主体が必要である。全体を運営管理する会社が必要であるということです。神戸市における窓口が全然分らない。ポートアイランド総局を早くつくってくれということをいっておるわけです。国際展示場、国際交流会館、ホテルなどの諸施設を円滑に運営する主体を確立したいということです。

諸岡 行政は首尾一貫してハードを担当し、ソフト面は完全に民間に委せる方針で、町衆の頑張りが欲しい。

柏井 第二点として「ポートアイランドへの進出価値とその経済活動効果を支えうる行財政施策が必要である」。固定資産税の減免とかを含めて企業の優遇を考えないといけないですね。それをやらないと企業は集まらない。

第三点は「商業施設・教育文化施設などについては、三宮都心などの既成市街地との機能分担をはかり、神戸市全体としてのより高い魅力づくりに役立てるべきである」。第四点は「既成市街地とポートアイランド・六甲アイランドを結び、さらに大阪湾臨海地域全体を総合的に連結する交通体系を整備することが必要である」。

第五点は「昭和56年のポートアイランド完成を記念して開催される博覧会は、神戸に対する国際的な期待をうけとめることができるテーマのもとに、充実した内容を計画的に実行協力していける企画であり、かつその中心的施設は都市としての神戸のイメージを高めうるシンボリックな利用を将来とも可能にするものでありたい」以上です。

諸岡 今までのようなひとつの価値概念で割り切って見ようとするのじゃなくて、バランス感覚で総合的に見て行こうとすることが大事だと思うのですが、その中で文化産業というものをやって行くのにやはり基本になるのは、絵画とか、音楽、造形、文学、そういうような感動の美学というものがベースにないといふような産業も発展しないと思います。世界共通の美意識というものを追求す

る行政の姿勢、市民の姿勢、企業の姿勢がベースになればどんな産業もあだ花になると思います。

柏井 そういう意味では、ホテルには一番金をかけて文化的なひろばとして値打ちのある場所にすべきですね。

中内 ホテルにギャラリーをつくって芸術家に提供しようとも考えているんです。かなり金がかかるんですが、建物自体も神戸らしいフォルムにしようと、今、設計を進めています。大事なことは今、神戸には何が足らないかってことですね。これをもっと追求する必要がある。足らないものをポートアイランドにどうしてもつくらないといけない。

木口 私が一番心配するのは国際会議場やホテルの建設が動き出すと、利権屋みたいなのが一ぺんにワッと来ることですね。そのときに土地を売ってしまうとホテルはリッパだけど他はクチャクチャだというのができると思います。それが一番心配ですね。本当をいえば、レンタルでもいい、来て欲しい企業を誘致するということを神戸市自身が打ち出さないとけない。

柏井 とにかくポートアイランドはソフトで行くべきですね。ハードは六甲アイランドへもって行くべきだ。

鬼塚 コンテナ基地なんかは六甲アイランドへ移してもいいわけですね。

木口 ポートアイランドへ行ってみると、コンテナヤードがズーツと押し込んで来そう感じがしますね。見ただけで圧迫感を感じて、これが将来本当にファッション都市になるのかという懸念がありますね。

鬼塚 とにかくポートアイランドは特別市だという感覚で引きつけないと人は来ないですよ。ああ、素晴らしいところへ来たなというような噂が噂を呼んで人が集まるという町にならないといけない。ポートアイランドが成功するかしないかは都市政策にかかっていると思います。都市政策をビシッとやっていたらでき上ったときの成功率は高いですね。

(神戸国際ホテルにて)

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市葺合区旗塚通 6-3-10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

株式会社ワールド

会長 長木 口 衛
神戸市葺合区磯辺通 3丁目 2-17
TEL (078) 251-5311

カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 福岡 必三
神戸市生田区三宮町 1丁目17-4
センタープラザ東館 8F
TEL (078) 392-2101

株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市生田区三宮町 1丁目54
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株式会社

取締役社長 葛野 友太郎
神戸市東灘区御影本町 6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594

入船株式会社

取締役社長 小泉 進吉
神戸市灘区新在家北町 1丁目 1-19
(阪神電鉄新在家南) ブリコビル 3F
TEL (078) 851-3191



H. HISHIYAKA

キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の
企画は以上7社の提供によるものです。

素材いろいろ、クリーニングもいろいろ
ファッション・クリーニング



あなたのファッションをFRESH UP!
ニシキマ
神戸市東区北田町1番1078851・244047

山手店 三宮店 熊内店 宝塚店

コーヒゼリー震える
ひとりの風のテラス



芦屋・山手町 写真 / 米田定蔵

モントルー

芦屋本店 / 芦屋市公光町 9-7 (阪神芦屋駅前)
TEL (0797) 31-1781

岡本店 / 神戸市東灘区岡本 1-10-16 (阪急岡本
駅西100米 第2アカギビル) TEL (078) 451-8891

経済ポケット ジャーナル



★観光も神戸の基幹産業！
初めての観光白書を発表
北野町界わいのゾロゾロ
歩きをみていると、風見鶏
ブームはまだ衰えずの感あ
り。そして全国の国鉄各駅
には「ノスルジー・オブ・
コウペ」のポスターが貼ら
れて「観光地神戸」の宣伝
も勢いさかん。しかし、果



うろこの家も連日満員

して観光地としての神戸の
実態は何如。このほど神戸
市経済局貿易観光課によつ
て「風見鶏ブームのなかで」
と題した「神戸観光白書」
がまとめられた。

白書は、観光客動向調査
と神戸のイメージ調査の結
果分析からなり、昨年度一

年間の観光客総数は一三五
〇万人、総消費額一三三九
億円と集計、この額は神戸
のゴム製品製造業の出荷額
に匹敵するとしている。ま
た東京と仙台で調べた神戸
のイメージに対する調査で
は、年令、性別によって多
少のちがいはあるが、概し
て「異国情緒」と「海のロ
マン」があげられ、知名度
の高さでは六甲、有馬、須
磨、異人館に並んで三宮が
登場。ファッション都市神
戸の顔として三宮・元町地
域の街づくりの重要性を示
している。

★竹馬産業が七十五周年
「竹馬のあゆみ」を編集

堅実経営と抜群の業績を
常に保持した第一級の繊維
専門商社として誉れの高い
竹馬産業株（竹馬準之助社
長）が創業七十五年を迎え
社史「竹馬のあゆみ」を発
刊。同社は明治三十六年、
竹馬準三郎商店として輸入

羅紗卸商を開店したことに
始まるが、大正五年にこれ
を株式会社組織に拡大。以
後、堅実経営を重ね、昭和
十九年、二代目社長に竹馬
準之助氏が就任、社名を現
在の竹馬産業株に変更。氏
は、先代の遺業を継承し、
積極性をもって緻密な経営
戦略により業績も伸長。現
在に至っている。



竹馬準之助社長

同社史は、その竹馬産業
の歴史だけでなく、繊維産
業界の歩きともいえる内容
になっている。

★金露酒造と沢の鶴

それぞれ新製品を発売
金露酒造では、みのりの
秋に見渡す限りの稲穂が朝
日に輝く様子はまるで黄金

★KOBEOフィスレディ★



池沢 仁美さん (25)

<サンテレビ制作部勤務>

とても明るくはからかで、精力的に動き回る制
作部のスタッフたちから「池ちゃん」と可愛いが
られている。ニュージーランドで暮らしていたと
本気で考えて、大学卒業後、一年間滞在のつもり
で出発。いろいろあって仕方なく一ヶ月で帰って
きたが「大きな体験だった」という。結婚は「で
きる時にしたらいい……」だって。

(関西外語大卒)

のよう、その稲をもつて釀
した酒というところから命
名された「金露黄金」を新
発売。その味も昔風辛口酒
で最近、辛口愛好家が増加
していることから、なかな
かの好評を博している。一
級一・八ℓ、一四三〇円。

また「沢の鶴原酒」のミ
ニボトルが評判の沢の鶴で
は、五月に高級吟醸酒「大
吟醸白瑞璃」を発売。正倉
院御物を形どったガラス製
の容器に入ったこの清酒、
独特・ロックや冷やで飲む
のに適している。特級七二
〇ml五千円。

★阪神内燃機工業株式会社（社長・
木下吉治郎）本社移転と神戸工場を
明石工場の新施設に統合。
本社・神戸市生田区海岸町8 神港
ビル4F ☎332-20681
明石工場・明石市貴船5-18-7
0 ☎(078) 92313446
★カネボウベルエイ株式会社
（社長・稲岡必三）本店が移転。
本店・神戸市生田区三宮町1セン
タープラザ東館8F ☎392-12
101

▲特集▲

六甲山ハイキングガイドハイ

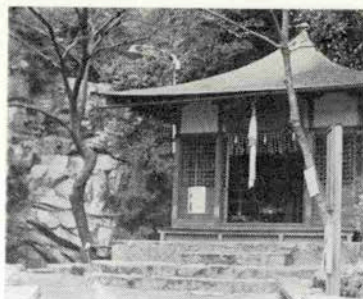
家族で

岩のぼりを

松岡 寛一

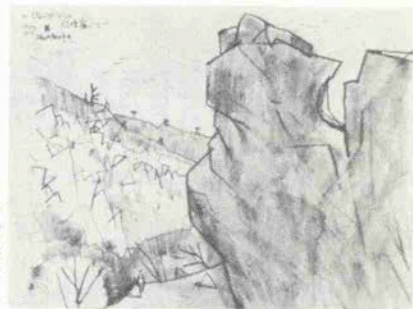
△画家△

△コース△阪急芦屋川―ロックガー
デン―風吹岩―金鳥山―保久良神社
―阪急岡本



高座の滝にある祠

阪急芦屋川駅から川沿いに北上してまもなくY字形にわかれる道を左へ、すぐまた北へのぼる。住宅街をはなれて谷沿いとなる道がつきあたると茶店の軒をくぐって高座ノ滝へ出る。滝壺左手の崖道をのぼると眼の前に岩稜がつきあげている。これがロックガーデンの中央稜である。左手眼下の谷は地獄谷。右手はよく見えないが高座



「風吹岩にて」

ノ滝の上流の高座谷。

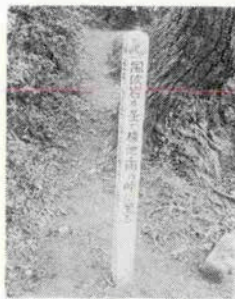
さて、ロックガーデン中央稜は踏み荒らされた岩稜で、どこを踏んでものぼれるが、なるべく赤ペンキ矢印をたどるのが安全。足元



ひたすら岩道をのぼる

に注意してひたすらのぼる。のぼるにつれてふりかえる眼下に山と町と海と空が展がる。地獄谷入口にあるゲートロックの崩壊跡の岩壁には若者たちのクライミング姿も見え、さらにのぼるにつれて地獄谷と中央稜の間に群立する

奇怪な形の岩峰群の風景がひらけてくる。若者たちがザイルさばきやアイゼンワークを試みるゲレンデでもある。



いたる所に標識がある

二個所ほど送電塔のある地点をすぎると黒ずんだ岩が小さい城門のようにそびえる地点へ出る。いまは風化と崩壊で貧弱になった風吹岩である。その上部へ出るとここはロックガーデンの展望台。万物相、墓場などとそれぞれ名づけられた奇怪な形の岩峰やA懸、B懸とよばれる岩場。少し山好きな若者が同行すれば得意顔で展望台からのその眺望を説明してくれるはずだ。

中央稜の道はさらに風吹岩から



風吹岩でスケッチをする筆者

北へ雨ヶ峠、本庄橋をへて六甲最高峰へとつづくが、本日の神戸っ子家族向きコースはこの風吹岩から保久良神社へ下山道をたどる。



小学生も遠足に来るコースだ

風吹岩の鉄塔の裏から砂地の斜面を下る道が西南へ曲る。よく踏まれた小ひろい山道を少しのぼるとあとは下りばかり。右手西側に植林されたハリエンジュの林が、季節によっては白い花をつらねる。

木製の腰掛がある休憩地に出るこのへんでふりかえると、いつのまにか通りすぎて、あ、あれか、と気がつくササ原の小山が金鳥山である。南の眼下にくろぐろと深い緑の樹林が見えるが、これが保久良神社の森。それを目ざして階段道をどんどん下ると年ふりたヤマモモの巨木が梢をひろげる保久良神社の境内へまわりこむ。あと

は神社正面の舗装路を下り、住宅の中を南へぬけて、やや西寄りの阪急岡本駅へ出る。



保久良神社あとは舗装道の下りだけ

（逆コースのときは、ロックガーデン岩稜の下りが老幼者向きではないので要注意）



▲特集▲

六甲山ハイキングガイド△2△

北部の展望 と山ツツジ

嶋田 勝次

△神戸大学工学部教授△

△コース△

六甲ケーブル下ーアイスロードー前が辻ーダイヤモンドポイントー地獄谷西尾根ー神戸電鉄大池駅ー(電車)ー有馬ー(ロープウェイ・ケーブル)ー六甲ケーブル下

六甲山を南北に上り下りするコースはたくさんあるが、その中でも由緒あるアイスロードから地獄谷西尾根への道は、四季それぞれの楽しみがあると思われる。

阪急六甲駅午前九時集合。市バス⑯系統六甲ケーブル土橋駅終点下車(海拔250M)すぐ西の元ドライブウェイをスタート。ダイナミックなパイプ構造の六甲新大橋の下をくぐり、ドライブウェイの交叉点から真直ぐ山道に入る。戦前あった六甲ロープウェイ駅跡の無残な姿の横を通り、車道を横断して、やっと車と別れる。標識通り谷道に入って少し登ると行く手に二つの堤防が現れる。右が真水谷、この溪流を登るとケーブル山上駅の方で堡塁岩に出る。今日は左の前が辻谷を登るのである。



ダイヤモンドポイントにて

この左右の谷の出会いに真水茶屋があった由。前が辻堰堤の上に出ると、六甲山上のホテルや山荘が正面に見えてくる。この河原で一息入れる。十時十分、ゆっくり歩いて来て五十分の距離である。さあこれからアイスロードの急登である。落ちた椿の花や時期遅れの満開の桜などに迎えられ、小休して神戸市街地の展望を振り返りながら、三井物産六甲荘の鉄筋三階建の横にたどりつく。前が辻(760M)への登りは終り。



アイスロードの登り

このアイスロードは、明治期六甲山上の池に張りつめられた氷を



なだらかな道。歌でもうたいながら...

一キロも行くと、パッと視界が開け、ダイヤモンドポイント(745M)へ到着である。十一時五十分このダイヤモンドポイントの台地は、六甲山上でも数少ない北部の展望台であろう。播州から丹波の山波を背景に、雄岡山・雌岡山・丹生・帝釈から三田富士などを手近かに望める嬉しさは格別である。またこの展望の中での楽しい昼食

市内に下ろした道で、当然現在よりもっともっと広く、勾配も運びやすいルートだったろう。この石垣の一部がそうだったのではない、しかし北海道から市街地に氷が運ばれて貯えられるようになってから、この道は急激に衰退したのであると、同行の山道雄氏(郷土史研究家)は教えてくれる。

六甲山上売店での冷たい飲みものでノドをうるおし、西へちよつと行き、大阪YMCAC研修所の向う側、丁字が辻のバス停の直ぐ西の道を北へ入る。自動車一台が通れるコンクリート舗装の一本道を北西へ歌でも唱いたくなりながら

はメンバーの腕の見せ場でもある。とりわけ同行の諸岡博熊氏の、うどんからコーヒ、そして抹茶の野点までの店開きは、どう表現したらいいだろうか。とにかく生活の知恵がいっぱいである。

出発は午後一時十五分。ここから北へどんどん下って行く。西が石楠花谷、東が地獄谷であるが、しっかりとした尾根道で不安はない小さなコブを二、三越える。その中の高いコブが水晶山(700M)であるが、それも分らないまま過ぎる。景色のよい岩場で休む。ウグイスの声と山ツツジがわれわれを包んでくれる。対岸の山肌も紫色いっぱい。この季節でないと見られない自然の色であろう。左と右の下に真新しい堤防が見え始めると、山道は尾根が終って、右へ一

気の下ることになる。二時十五分地獄谷道まで下り切る。最近新しく巾広く整備されたらしい川沿いの道を十分も北へたどると、広い堰堤上の広場に出る(365M)。



大池堰堤上の広場。今日の終点

今日の山歩きを終点である。

ここからは開発団地の中を東北へ抜けて三十分で神戸電鉄の大池駅に着く。三時二十分。ここからはもう新開地経由で帰るか、一寸有馬まで足をのびして帰るか、迷うところである。今日は有馬温泉

で汗を流し、さっぱりしてから六甲有馬ロープウェイで雲上の人となつて帰る。

同行の永栗孝一氏から詩をいただいたので、掲載させていただく。

回顧の「アイスロード」

永栗 孝一

アイスロード
六甲山の天然水を背負って
この道を降り
麓の町家へ供給して
生活の手段にしたといふ……。
古い話の断片を想出し乍ら
晩春のあでやかな雪のもと
残りの色香捨てがたい山桜や
やまぶきのゆたかなたゆたたいを
迎え 見送っての一步一歩だ、

若い日真水谷の堡岩へ
ピトンを打ち ザイルを綱ませて
攀ち登った仲間の方方は
既にこの世から失せ去ったが
今日通る山路に 回想の糸は
過去へ 過去へと のびてゆく。



アイスロード—地獄谷西尾根
一般向 9キロ

▲特集▲

六甲山ハイキングガイド△3▽

最高の眺望

“天狗塚”

諸岡 博熊

△神戸市企画局参事▽

△コース▽

阪急六甲―伯母野山―長峰山（天狗塚）―袖谷―自然の家―丁字ガ辻―前ガ辻―記念碑台―浅雲荘下―石切道―白鶴美術館―阪急御影



であるので、心と体の準備を一週間前から、さらに装備も十分点検して出発。

神戸の背山、六甲山はバラエティに富んだ山系である。名著「六甲山ハイキング」の著者、大西雄一さんの言によれば自然と市民が素直にとけあっているこれほどの山は少なく、年齢、性別、趣味、能力を問わないで、四季を通じて家族連れから健脚、アルピニストの養成まで満足させ楽しませてくれるところである。

とはいえ、六甲山をなめてかかつてはいけません。どのようなときでも着替え、救急薬、雨具、懐中電灯、予備用非常食、地図とコンパス、水筒、そしてリュックを濡らさないようにリュックカバーは用意して出掛けたいものである。また、ゴミは必ず持ち帰るようにしたい。

さて、このコースは、健脚向き



きびしい登り坂が続く

る。これが目指す天狗塚で別名長峰山（標高六八七メートル）と呼ばれる。同行者吉田稔郎さんは生まれて初めての熟練者向きのコースに挑む。あとの二人はベテランの小西増一さん、田中正澄さん。

阪急六甲駅を八時過ぎ出発。六



天狗塚に到着 パンザーイノ

れはあとからゆっくりとついていく。草原の防火線を登る途中、外人とスレ違った。この人は、毎土曜日伯母野山の自宅から天狗塚まで登っているとのこと。われわれ一行の靴をみて、「ゆっくり登りなさい」といって元気に下っていった。

九時四十分、六四五メートルのコブに到着。Y字型の道を右へとする。少し下って林間を通り、再び登って、

甲学院のある伯母野山記念碑まで一・五キロ。標高三〇〇メートルであるが舗装された急坂を案外すいすいと登る。この間約三十分。伯母野山を過ぎると完全に山道となるので水を天狗塚まで飲まないよう各自で自戒する。山の神が祭つてあるところを過ぎてから、いよいよ急坂にかかる。椿のトンネルを通り階段にかり出すと、足の弱い人はバテ気味となる。送電鉄塔の下で始めて小休止。九時。日陰がないので、汗を猛烈にかく。記念碑から天狗塚まで二・五キロ。標準で一時間半ないし二時間である。足の遅い人を先に登らせて、われわ

つぎのコブにつく。ここもまた右へとコースをとり、下つて登ると、目の前に突然、天狗塚が出現した。一同元氣百倍。天狗塚の頂上、四等三角点のある岩によじ登り、神戸の市街地を眺める。摩耶ロープウェイ、表六甲ドライブウェイが手にとるようにみえる。残念ながら春霞のため遠望があまり

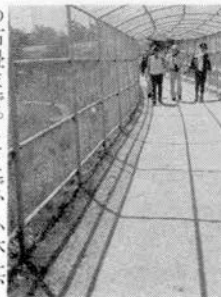
きかない。ここで初めて冷たい水を飲む。小西さんが水を持ってきたので、水をかけて飲む。十五分休憩する。天狗塚の登りの苦しいのは「山の神」から最初のコブまでの約一時間少しであろう。

袖谷峠までの道は樹林のなか、よく整備されたコースを登ったり下ったりして約三十分で一・五キ

を走破する。

自然の家に十一時到着。付近で昼食をとる。メニューは、うどん、ぜんざい、コーヒー、みかん、赤飯、お茶といったフルコースを携帯コンロとコッヘルで、手際よくつくる。

約一時間休憩後、自然の家の横の階段を登り表六甲ドライブウェイに出る。これからは、六甲全山縦走コースで、丁字が辻、六甲山ホテル、記念碑台、六甲山小学校、神戸ゴルフクラブを経て凌雲荘へ



神戸ゴルフクラブ横を歩く



の石畳まで。ここで、小休止、十三時半。けなげなスチウワードを祭った「みよし観音」を拝んで、三十ほど石畳を登ると、石切道入口の道標がみえる。袖谷峠からここまで約六・五キロの樹林を下る。白鶴美術館まで四・五キロという道標までがゴロゴロした石切跡の山道、それからは、ダム工事用の自動車道に沿ってダラダラと下っていく。観音像から下り約五・五キロを一気に下って、十五時、美術館前到着。小走り厳禁。山は下りで膝を傷めないようゆつくりと歩くことがコツである。

▲特集▲

六甲山ハイキングガイド△4▽

椿散りしく

溪流のみち

大西 雄一

△六甲全山縦走市民の会々長▽

△コース▽ 布引―市ヶ原―地藏谷ダム―地藏谷奥ダム―天狗道出合―摩耶山上遊園地―袖谷ダム―護国神社

ご存じですか。

きれいな溪流がせせらぎ、落葉の深いしっとりした小径には、やぶ椿の紅い花が、まるで絨氈の絵模様のように散りしっている。みあげる碧空には辛夷（こぶし）の花びらのま白なのが映えて眩しい。溪流はカラリと明るく、あなたの歌声を響かせるが、時として鬱蒼とした深谷となり、苔むした巨岩の重なりの間を、清流が奔り、椿や辛夷の花が流れる……。

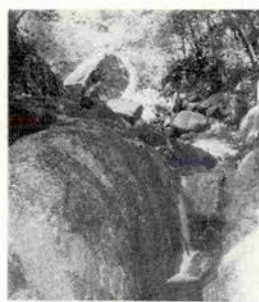
こんなコースをご存じですか。

いえ特別のところではございません。ついそこに、あなたの目と鼻のところ……バスをおりて僅か一時間あまりで行けますよ。ご家族連れのハイキングにいかがですか。ご案内いたします。

お馴染のハイキングコース布引



（左）雄一さん（右）地藏谷



苔むした岩の間にせせらぎが

の貯水池や市ヶ原についてはよくご承知でしょうか。省略しますがその市ヶ原の奥の桜茶屋から北へ溪流沿いの道をいくと、大きなダムに出ます。このダムの上手は広い河原で、いつも若い人や家族連れで賑わっています。ここからまっすぐに広い溪流を遡るのがトウエンティクロスのハイキングコースです。この河原の左岸に摩耶山頂から伸びてきたふたつの大きな尾根が落ちこんでいます。手前

（南）が天狗尾根、それに相対する北側が黒岩尾根、その間に挟まれた溪谷が、今日おすすめする「水奔り、椿散りしく山径——地藏谷」です。

清冽な溪流に寄り添うて馬酔木と椿の林の中を、落葉のふかい気持のよい細径が、ずうと続いています。道標もよく整備されているので、安心して歩けます。何度か滝を避けて高巻しますが、時々は径からそれて溪流におり飛石伝いや岩床を伝って沢通しをいくのも興味をまして面白く、氣にいつ



椿のじゅうたんが趣深い

た場所でお茶にしたりお弁当をひろげたり、ザリガニや小魚を追うのも愉しいですね。

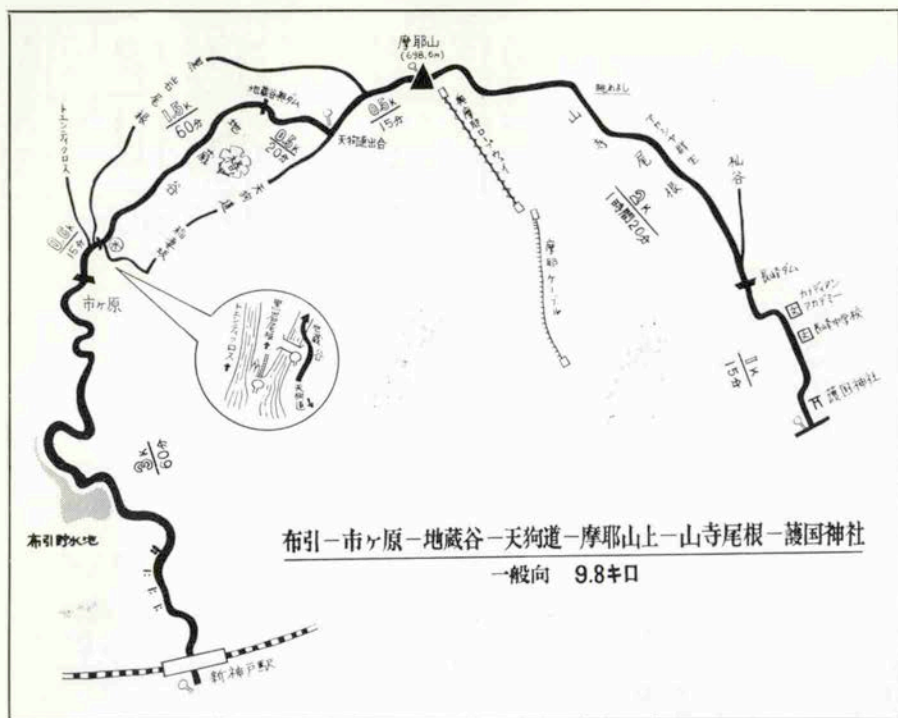
谷が明るくひらけ傾斜のある赫茶けた岩床帯を水が細々と流れる地点をすぎると、やがてちいさなダムに突き当たる。ここで地藏谷は終わります。ダムの手前から右の尾根筋にとりつき、林のなかをまわりこむと、摩耶山頂への天狗道の稜線に出ます。とたんに眺望が大きくひらけ、ムードがガラリ

と変化します。摩耶山頂へはいま一息の頑張りだが、この急な尾根道も元気な坊やらにはすばらしい冒険の試みで、きっと大喜びでしょう。

摩耶山頂の遊園地からは、あなたのご都合次第。ロープウェイ、ケーブルで市街へおりてもよし。

幽すいな森林のなかを天上寺参詣もまたよろし。今日のあなたはまだまだお元気なようなので、帰り途は、ひとつきびしいコースをトライしてみましよう。

八州嶺展望台(遊園地の東南端)の横から踏み跡径を一気に五〇メートル余り急降下すると樹間の小



徑に出合う。右は森林帯を天上寺へ、左はこれから行く山寺尾根道。平均斜度三〇度、馬の背状の尾根筋をグングンと降りにくだる。太ももの筋肉が張り、膝小僧がガクガクする。急がず慌てず、一步一步、堅実に身体をおろしていくのがこんな場所での要領です。きつい降りでご苦労さんですが、その代り景色は抜群で十分に愉しめますよ。高圧線の鉄塔の辺りからはアカシヤの森で美しく、やがて袖谷ダム幅広い河原におりたつ。



杣谷ダムからはまもなく市街へ
 おりますが、カナディアシアカデ
 ミイ―長峰中学―護国神社の
 コースをおすすめします。この坂
 道は、山と海と洋館とが渾然一体
 となった景観で、神戸らしい魅力
 があります。